O C A R e p o r t 2 0 1 8

OCAレポート2018

5月　チュラロンコン大学、チェンマイ大学学生15人が来日研修
5月　コモンビート台湾公演123人が台北へ
7月　おにぎりフレンズプロジェクト UWPアラムナイ11人来日
8月　サマーキャンプ 台湾から10人、韓国から4人、日本から25人参加
10月　北部タイツアー チュラ大6人、中央大学10人が北部タイへ
12月　アジアンビート 台湾5人、韓国4人、日本20人北部タイへ
スクールプロジェクト40校訪問、5,000人の生徒達が参加
1月　相馬豊胤氏をしのぶ会開催、120人が参加

僕たちがやりたいこと　行動目標

1）若いころ学んだこと

僕達が OCA の事業を通じて行いたい事は若い世代の国際交流と人材の育成です。

僕たちは若いころ毎日のように麻布の MRA ハウスに通って、渋沢さんや相馬さんとこれからどのように生きてゆくべきか、将来何をするかについて話し合いました。多くのプロジェクトを一緒に行いたくさんの事を学びました。小田原センターでのアセンブリー、武道館での公演、移動高校での活動、全国を回ったショウー、アメリカ公演。僕達若い世代が広い世界に出たい、新しい生き方に共感したいという希望に対して音楽活動を通じて新しい世界に導いて頂いたことをお二人に深く感謝しています。

僕達は MRA の活動からいろいろなことを学びました。

- 世界の動きに注目し広い世界観を持つこと。自分の意見を持つこと。
- 海外の友達を持ち、海外を身近に考えること。
- 自分の心の声を静かに聞いて、その声に正直に従うこと。
- 人はそれぞれ異なる。多様な価値観を受け入れ、人をありのままに理解し愛すること。
- 人が今どのような気持ちでいるか考えること。
- 誰が正しいかではなく、何が正しいか考えること。
- 無私の精神。社会のためにどのように生きるかを常に模索すること。

若いころ学んだこれらの事はその後社会に出て働いた時に自分を助け、支えとなってきました。

2）若い世代につたえること。

2012 年 OCA の活動が MRA ハウスの直轄事業になった時に、僕たちが若いころ学んだことをどのように若い世代に伝え、若い世代を育ててゆくかを考えました。そのころ僕たちは 65 歳を超えた定年世代であり、伝えるべき若い世代の友達など持っていなかったのです。ただ米国の UWP のミュージカルを 2004 年に日本ではじめた「コモンビート」はすでに東京、名古屋、大阪、福岡、宮城、秋田、鹿児島、静岡、新潟、群馬で事業を展開し、毎年ミュージカル公演を行っていました。コモンビートはその後地方に大きく展開し、800 人のキャストと 5000 人以上のアラムナイを持つ組織となりました。僕たちはコモンビートと一緒にアジアの人たちと歌とダンスを通じて交流する「アジアンビートプロジェクト」を展開することにしました。このプロジェクトは今年で 7 年目に入ります。

3）僕たちがやりたいこと

僕達はコモンビートや UWP アラムナイ、日本、台湾、タイ、韓国の大学生・若者とこの報告書に紹介したような多くのプロジェクトを展開しています。これらのプロジェクトの準備、実施段階を通じて若い世代に広い世界を体験する機会を提供し、世界の人たちと友達になることがどんなに重要か理解してもらい、僕たちが若いころに学んだ多くの事を伝えてゆきたいと考えています。これが僕達の考える MRA 活動の継承です。

OCA 運営委員会一同

5月

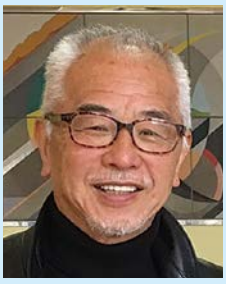
タイ学生訪日研修プロジェクト

タイ チュラロンコン大学、チェンマイ大学　5月23日～6月1日

中津川でのホストファミリーとのウェルカムパーティー

奥村　康治

Koji Okumura



5月23日から6月1日までの10日間に及ぶ今回のタイ学生の「訪日研修プログラム」では、これまでのチュラロンコン大学に加え初めてチェンマイ大学からも学生が参加しました。チュラロンコン大学からは学生8人と先生2人が、チェンマイ大学からは2人の学生が参加、総勢12人のプログラムは大阪大学の訪問から始まりました。

世界遺産「白川郷」へ

大阪大学での研修後、今回は例年実施していた京都ツアーを取りやめ、世界遺産である「白川郷」を訪れ、合掌造りの集落を見学、日本の原風景を堪能しました。夜は飛騨高山の「高山善光寺」の宿坊に宿泊し高山の街を散策しました。

早稲田大学にて

中津川でのホームステイ

今年も例年お世話になっている中津川でのホームステイではガーデンパーティでホストファミリーたちの温かい出迎えを受け、2泊3日の日本の家庭での生活を体験しました。ここでの体験はタイの学生たちに大きなインパクトを与え、多くの思い出を作りました。

早稲田大学政治経済学術院　戸堂教授の講義

東京へ。各大学を訪問

その後一行は東京へ移動。早稲田大学、中央大学、埼玉大学を訪問し、各大学の教授たちからの特別講義を受けると同時に、今年はタイの学生たちからもタイの経済や生活環境などを発表し各大学の学生たちとの交流を図りました。

タイ王国大使館訪問

今回はチュラロンコン大学のシリマー先生のご尽力により「タイ王国大使館」を表敬訪問しました。

バンサーン・ブンナーク大使は玄関先まで我々を出迎えてくれて、その後 2 時間にわたりタイと日本との友好の歴史やタイ王室と日本の皇室との強い結びつきをはじめ、文化、経済など多岐にわたってお話しをお聞きすることが出来ました。ここには中央大学の長谷川教授以下、そのゼミの学生たちも参加しました。

中津川でのホストファミリーとのガーデンパーティ

チュラロンコン大学

シリマー教授

Sirima Bunnag

今年は、チェンマイ大学の学生が日本での交流プログラムに参加しました。

チェンマイ大学経済学部副学部長の Charuk Singhapreecha 教授が 2 人の生徒を指名してプログラムに参加させていただきましたことに対して、とても感謝しています。

今回は、大阪大学、早稲田大学、中央大学を訪問して、アカデミックな活動を実施しました。これはタイから日本の友人に情報を共有する新たな活動で、タイの学生から「サプライチェーン」と「タイ北部の経済」について 2 つのプレゼンテーションを行いました。

これはタイと日本の関係を強化したと自負しています。

さよならパーティー

最後の夜は居酒屋での「さよならパーティ」。日本の学生たちとタイの学生たちは夜がふけるまで語り合い、交流の輪が広がりました。

「タイ学生訪日プログラム」で培ってきた、タイの学生と日本の学生たちとの交流の輪、人間関係は多くの人たちの支えと協力で続けられて来ています。

いままでの実績に共感してくれた中央大学経済学部は、チュラロンコン大学のシリマー先生の呼びかけに応え、日本の学生とタイの学生が一緒になってタイ北部を訪ね、タイの地方都市の課題や地域経済を学び、そこに住む少数民族の実態や人々の生活を知るという , 新しいプロジェクト「北部タイツアー」を 10 月に立ち上げることに繋がりました。そこではタイの地方都市にある各大学の学生たちとの新しい交流の場が広がることに結びついています。

大阪大学生たちと回転すしで。食べたお皿を高く積み上げて競争（笑）

タイと日本の教授と学生が、大変名誉なことに駐日タイ王国大使館を訪問することができました。私たち全員が Bansarn Bunnag 大使から歓迎されました。

大使は公務でお忙しい中を、タイと日本の関係、大使館の役割、海外外交団の役割などについて丁寧に説明していただき、大変貴重な経験をさせていただきました。

世界遺産の白川郷観光でのスナップ

中央大学 経済学部
長谷川教授
Toshiaki Hasegawa

中央大学白門ステージにて

チュラロンコン大学と中央大学は、学術交流協定を締結して以来短期、長期とも学生、教員の相互の受け入れを行なっています。グループ・フォトは、恒例の中央大学のシンボルである白門ステージで撮られたものです。タイ王国在京大使館に、チュラロンコン大学、チェンマイ大学と中央大学の学生（長谷川研究室学生）が、バンサーン・ブンナーク大使を訪問しました。大使は講演の中で、両国の学生に 600 年にわたる日タイの歴史、修好条約を結んで 130 年の友好関係の紹介から始まり、皇室と王室との関係、経済、外交、文化の話題を交えて、沢山のメッセージ、アドバイスを学生諸君に与えてくださいました。

なんとも贅沢な時間を過ごさせていただきました。国際交流は、継続していくことに意味があります。MRA-OCA の の企画、支援の弛まぬご努力に感謝したいと思います。

駐日大使　Bansarn Bunnag

バンサーン・ブンナーク大使の講演
大変貴重なお話を聞くことができた

タイ王国大使館玄関前で大使を囲んで

「タイ学生訪日研修」プロジェクト 参加者

Chulalongkorn University

Best
Virakorn
Dulyavit

Book
Piynudda
Kaewpiyasawad

Grace
Duangporn
Tosom

Nook
Nattha
Khamphan

Nutt
Nutt
Asavachaichan

Phol
Savaphol
HirunDaranakul

Vee
Veeraphon
Sopaviriyaporn

Win
Paris
Tosujarittham

Chiang Mai University

Fern
hattaraporn
Wangsrikhun

Kwan
Sujeeporn
Thanongkit

Chulalongkonn University Professors

Ja sensei
Khanittha
Tambuntertchai

Pui sensei
Sineenat
Sermcheep

UWP への派遣支援　2018 年度も Up With Peopie に 2 名を派遣支援しました。

OCA は 2010 年から毎年コモンビートのメンバーを UWP のプログラムに派遣する支援を行っています。現在まで 16 人が UWP のプログラムに参加しました。帰国後、多くの方々が OCA のプログラムに参加し、現在も OCA のプログラムを運営するスタッフとして活躍しています。

現在までの派遣支援者は以下の通りです。

2010 年　中川純里　花村夕佳里　久保田晃成
2011 年　原田尚弘　木村美香
2012 年　山田直弘
2013 年　杉本仕主也
2014 年　新井三保子　今井藍　月井涼太郎
　　星野桃子
2015 年　中原有紀子
2016 年　島林由香　田井淳美
2017 年　藪咲英　上原紗英

森ゆうき（ゆーき）2018 年 castB

小さな頃から話を聞いていた Up with People に参加できたことを本当に嬉しく思います。Up with People でインプット & アウトプットして学んだ沢山のことを、自分の人生そして社会のために活かしてゆきます。

三矢楓（もっぴー）2019 年　CastA

子どもの頃からダンスが好きで、国際交流を通して自分の世界を広げることに関心があった私にとって Up with People はぜひ参加したいプログラムでした。

プログラム期間ではアグレッシブに活動に取り組んで沢山のことを学び、帰って来た後はグローバル社会に貢献できる人になることを目標に進んでいければと思います。

5月

コモンビート　台湾公演

4月28日～5月6日

コモンビート設立 15 周年記念台湾公演　123 人が台北に集合した

安達 亮

Ryo Adachi

2018年はコモンビートの設立から15周年になるので、ぜひベストメンバーで特別公演を行いたいと思い、以前から要請のあった台湾公演の実現を台湾側と相談してみました。アジアンビートに参加した台湾の若い仲間も30人以上になり、台湾側としても是非コモンビートの台湾公演を実現したいということになりました。

公演場所は台北市の中山堂となる。

台湾側からコモンビートの公演を行うなら是非台北の中山堂で行いたいと言ってきました。中山堂は若者の街「西門」にあります。中山堂は1935年日本人の設計者により「台北市公会堂」として建設された台湾で最も由緒あるホールです。大ホールは1階席、2階席で合計1100人の観客を収容できます。

キャストを募集、すぐに100人のキャストが決まる。

公演場所を決めて11月15日にはコモンビートのホームページにキャスト募集の公示を乗せました。1月9日には応募が101人に達しました。

演出は特別公演なのでチュソンにお願いしました。すべて英語で公演することにしました。練習スケジュールを2月10日、3月10日、3月31日の3回東京で行うことにしました。キャストは日本各地から、そして韓国からも東京の練習会場に集まるので、交通費だけでも参加者にとって相当の負担になったと思います。

中山堂は予約で満席になった!!

キャスト集めのめども立ちすべて順調に進んでいましたが、僕達の心配は本当に中山堂を満席にできるか?ということでした。

台湾側で集客活動を担当しているペニーたち若いアジビの台湾メンバーから動画を作って配信し、若い人たちを集めようとの提案がありました。チラシやポスターもこの時完成しました。動画の配信も始まり台湾での集客活動が本格的になりました。

4月の中頃になって台湾側からスポンサー経由とネットの申し込みが1050人を超えたとの連絡が入りました。満席です。

台中の大学訪問

さあ、いよいよ台湾訪問です。参加者はキャストとその子供、スタッフで合計123人となりました。キャストは4月28日から台湾に入るレギュラーグループと5月3日に入るショートステイの2グループに分かれました。

レギュラーグループは4月30日に2つのバスに分乗して1台は大葉大学にもう1台は中臺科技大学を訪問し、学生との交流プログラムを同時開催しました。2校ともアジビのメンバーを毎年派遣してくれ、今までも何回か学生交流プログラムを行ったことのある大学です。大葉大学には学生400人が、中臺科技大学には200人が集まってくれました。

さあーいよいよ本番です!!

5月3日には日本各地からショートステイのキャストが入ってきました。ミュージカルの進行役を務める国境警備隊の 3 人には韓国、台湾、日本のキャストが決まり、英語、韓国語、台湾語、日本語の 4 か国語を駆使してミュージカルを進めることになりました。

さあーいよいよ本番です。

中山堂の入り口には開演前から観客の長い列ができました。台湾のアジビアラムナイとその友達が総動員で受付と客の誘導、観客への対応を行ってくれました。そのころキャストは台湾のメイク専門学校の生徒さん 15 人くらいに言葉が通じないまま舞台メイクを行ってもらい、少し濃い目のメイクでグリーンルームに立っていました。

ロバートさんが台湾側を代表してあいさつを行い、台湾のアジビキャスト 15 人がグレーテストショウマンのオープニングダンスを行いました。中山堂は観客で満員になり、すごい拍手でミュージカルが始まりました。今回の公演はコモンビート 15 年のベストメンバーを集めた公演なので歌もダンスも

5 月　コモンビート台湾公演

素晴らしく、出演しているキャストが皆ワクワクしながら公演を楽しむことができました。アンコールでは台湾で年代毎に人気のある 3 曲を台湾語で歌って観客を大いに盛り上げることができました。

公演が終わった後キャスト達は中山堂のロビーで観客に握手攻めに会い、写真を一緒に取ったり抱き合ったりで、熱いひと時を過ごしました。

キャスト達は台湾のメンバーと一緒に 3 台のバスに分乗して花博公園のご苦労さん会の会場に移動し、全員で真夜中まで大騒ぎをして楽しみました。

台湾の関係者の皆さん本当にありがとうございました。

最後に台湾公演の集客、会場の準備、ポスターやチラシの製作、公演当日の観客の受け入れ、大学訪問の調整等多くの仕事を引き受けていただいたロバートさん、ケンさん他シングアウト台湾の皆さん、アジアンビートプロジェクトのアラムナイの皆さんに心から御礼と感謝の気持ちを伝えたく思います。そして忙しい中台湾公演に参加してくれたキャストの皆さん本当にお疲れ様でした。楽しかったね。良い思い出ができました。ありがとう!

今思い返すと台湾での 1 週間は、アジアンビートでの積み重ねと、日本で 15 年間継続して上演してきたミュージカルの積み重ねが相まって、とても幸せに満ちた時間になったと思います。言葉の壁はあっても、歌や踊りがあれば繋がり合っていける。違いがあっても「共通の鼓動」があれば、友達になれるんだ!と強く実感しました。これからも OCA の皆さんと一緒に冒険・挑戦してゆければと思います!よろしくお願い致します!

5月

コモンビート 15周年記念 東京公演の報告

5月27日

台湾公演から帰国して 5 月 27 日に「北とぴあ さくらホールで 15 周年東京公演を行う

韓 朱仙 (チュソン)

Chuson Han

台湾公演の熱狂が冷めやらない 5 月 27 日に東京の北とぴあさくらホールで、コモンビート 15 周年記念の東京公演が行われました。設立 15 周年という機会に、ミュージカル「A Common Beat」を原作の英語で上演するという特別な公演になりました。

その場には、この作品の作詞作曲を手掛けた Pat Murphy さんと Ken Ashby さんが遠路はるばるアメリカから駆けつけてくださいました。おまけに Up With People の数々の名曲を作り上げたお二人が「コモンビートの 15 周年記念を祝う曲」を作って来てくれ歌ってくれました。キャストやスタッフは大喜び。特別なギフトを頂いたひとときでした。

また、「もう一つの生みの親」である NGO ピースボートの古山葉子さんと高木理加さんも来てくださいました。彼らなくしてこのミュージカルプロジェクトが日本で始まることはあり得ませんでした。

公演は「生みの親」達とこの 15 年間に関わった多くの方々が見守る中始まりました。1 部はシンガーソングライターの沢知恵さんによるライブ「The Line」です。「The Line」はコモンビートの舞台に立った歴代のキャスト達皆が本番前に精神統一のために聞いている曲です。沢さんのライブでこの曲を聴くのは、キャストやスタッフにとって特別なことでした。沢さんの歌声は美しい詩とともに心に響き、観客の涙を誘いました。

2 部は台湾公演で熱演したキャスト達がまた一緒に舞台に立って Up With People の Pat さんと ken さんが作った「A Common Beat」を二人の前で再度熱演しました。お客さんも温かい拍手を何回も送り、キャストとともに歌を口ずさみ、リズムを刻み一緒に楽しんでくださいました。公演が終わるとまず Pat さんと Ken さんが立ち上がって大きな拍手をくださいました。周りの観客の皆さんもだんだん立ち上がって日本で初めてのスタンデングオベーションを味わうことのできた素晴らしい公演となりました。

Pat さんも Ken さんも私たちの公演を本当に気に入ってくださり、「18 年前私たちが生み出したベイビーは、15 年間日本で大切に育てられ、今では三か国語を話せるようになった。本当にすばらしい!!」と褒めていただきました。

この 15 年の間日本各地で、韓国で、台湾で公演を行い、日本語、韓国語、英語で公演ができるようになりました。改めて、コモンビートの発展に関わってくださった皆さんに大きな感謝がわいた瞬間でした。これからもこのミュージカルの発展を皆さんと一緒に進めて行こうと思います。東アジアの平和のためにこのミュージカルが役立つ日が必ず来ると信じています。

Up with people の Pat Murphy さん
Ken Ashuby さんの話を聞くキャスト達

7月

おにぎり フレンズ プロジェクト

World ONIGIRI Friend Project

7月12日～26日

UWP アラムナイを日本に招待して 2 週間、日本家族の家にホームステイをするプロジェクト。今年 11 人のアラムナイが訪日、福岡、広島を訪問した

浴衣着付け体験のボランティアで海外の人に着付けを教えたい、という方の依頼を受け実現。みんな見よう見まねで着せ合い近くの神社へお参り。姿勢や所作まで教わり日本文化を実感!

島林　由香

Yuka Shimabayashi

このプロジェクトは UWP の若いアラムナイ達を日本に呼んで 2 週間のホームステイをすることで、日本文化を生活体験から理解してもらうプロジェクトです。またホストファミリーと家族のような絆を作ることを目的としています。

今回は 7 月 12 日～ 26 日までの 2 週間全日程を福岡と広島でホームステイをすることにし、世界中から参加者を募集しました。応募してきたのは 7 か国から 11 人の若者でした。米国 3 人、メキシコ 2 人、ベルギー 2 人、スコットランド、ドイツ、ポルトガル、日本から各 1 人という内訳です。

福岡で博多山笠祭りに参加

さあいよいよ 11 人のキャストが世界中から集まります。集合場所は福岡空港。ホストファミリーと会ってすぐに一週間の生活が始まりました。福岡はこの時期ちょうど博多山笠祭りが開催されており伝統的な日本のお祭りを楽しむことができました。また浴衣の着付け体験やよさこいを体験、公立小学校で給食を学生と一緒に取り学校訪問授業を行いました。

広島での学び

福岡での一週間はあっと言う間に過ぎ広島に移動、広島のホストファミリーとの生活が始まりました。広島では原爆資料館、平和公園を訪問し、被爆者の証言を聞きました。アメリカから来たキャストは被爆者の話を聞いて泣き出し、被爆者の痛みやつらさが分かった、アメリカ人が嫌いなのではないかとても不安になったと言っていました。かなり衝撃だったようです。被爆者の方はそれを聞いてだれが悪いなどと言いたいわけではない、過去にこのようなことがあって、傷ついた人がたくさんいることを伝えたい、今生きている人は平和な世の中になる為にできることは何かを考えてもらいたいと言っていました。とても学ぶことが多かった広島のホームステイでした。

宮島でキャンプ!

広島では子供ミュージカルとの交流、英語学校でのパフォーマンス、ホストファミリーとのさよならパーテイなどを行って楽しみました。また、せっかく世界中から集まったキャストメンバーだからお互いに仲良くなろう!ということで宮島を訪れキャンプを行いました。全員で役割分担して夕食を作り、海で泳ぎ、星を眺め、自然を満喫して、年齢も文化も違う仲間が集まって、ともに過ごす時間は奇跡のような、とても平和な時間でした。

ホストファミリーと地元の道の駅へ。生活に密着!

ホストファミリーの皆さんありがとう!

今回で２回目となるプロジェクトを終えてたくさんの方々が応援してくださったことに感謝しています。特に今回は福岡の５家族、広島の７家族の皆さんがホストファミリーを引き受けて、キャストの面倒を見てくださいました。皆さんのご協力でキャスト達は日本の家庭の温かさ、普通の生活、素顔の日本人、観光旅行では決して味わえない日本と出会うことができました。本当にありがとうございます。今後も長く交流が続くことを祈ります。そしてまた次回ももっと面白い、こころに響く出会いを楽しめるプログラムにしてゆきたいと思います。

平和公園被爆資料館を訪れ、平和について語る。この瞬間に世界から集まった仲間といる事に感動。

コモンビートのよさこいチームと交流。言葉が通じなくとも踊りと笑顔があれば大丈夫!　いつの間にかこんな近くに寄り添っていました。やっぱり触れ合うって良いね!!

このプロジェクトを通して繋がった仲間。7か国から集まった11人のキャスト。2週間過ごす中で 様々な価値観と出会い、ぶつかり、乗り越えました。かけがえのない仲間です。 また、「日本に友達ができたよ!」と喜んで声をかけてくれたキャストがいました。 このような小さな活動が、一人一人の人生を豊かにし、平和な世界に繋がることを願います。

おにぎり フレンズ プロジェクト 参加者

Brittany(19)
Brittanuy Agoyo Chato
USA

Estefania(20)
Estefania Meza
Mexico

Cha(20)
Charlotte Villers
Belgium

GG(19)
Guillaime Delhaye
Belgium

Erinn(21)
Erinn Lucas
Scotland

Jas(19)
Jasmin Maria Kruger
Gemany

Jill(21)
Elizabeth Jill Dube
USA

Joana(33)
Joana Ramos morgado
Portugal

Rae(23)
Raenna Clarke
USA

Kai(20)
Kaishu Okuma
Japan

Sofi(27)
Sofia Rivas Munoz
Mexico

Yuka
Shimabayashi Yuka
Fukuoka

Sae
Uehara Sae
Tokyo

Namiko
Wada Namiko
Hiroshima

10月

北部タイツアー プロジェクト

10月27日～11月4日

日本の学生とタイの学生が一緒になって北部タイを訪問、地域経済を学び、各都市の大学との交流を図るプロジェクト

長谷川 聰哲

中央大学経済学部　教授

北部タイ地域ツアーと学生の国際交流チュラロンコン大学と中央大学の学生と指導教員による北部タイ・プロジェクトが、OCA の支援により実施した。両大学の学生と教員からなるチーム総勢 21 名は、タイ北部の 2 都市のチェンマイ大学とメーファールアン大学（MFU）を訪問し、交流を行った。

北部タイ地域は、メコンデルタ経済圏の国境沿いの地域にあり、貧困問題を抱えながらも進展する国境貿易が注目されている。首都バンコクへの一極化した経済社会とは異なるこの地域の国境経済の実態を学ぶプロジェクトとなった。訪問先の大学の経済学部を訪問し、特別講義を受けたのちは、現地学生との交流を行った。加えて、この地域の恵まれない子供たちを保護する施設を二か所訪問した。それぞれの施設において、施設の子供と学生同士の活発な交流で盛り上がった。

チュラロンコン大学での
セミナー

ササハウスでの交流

チュラロンコン大学　学生たちと

チェンライの MFU は、20 年前に設立された広大なキャンパスに美しい施設を配した素晴らしい大学で、国境の街に立地する特色ある教育カリキュラムを備えている。MFU 訪問後には、郊外にある孤児院メーコック・ファームの施設を慰問し、施設の子供たちとの交流が夜遅くまで行われた。

この地域では、ミャンマーと隣接する国境の町メーサイ郡を訪問した。歩いて国境の橋を渡りミャンマーに入国し、ミャンマー側の国境の街を見学した。タイに再入国し、この地域に生活する人々の市場を見学したのち、麻薬とその撲滅活動の歴史を学ぶために麻薬博物館を訪問した。

その後、タイ側から臨むゴールデン・トライアングルを見学した。この地域の意味を学生諸君が実感する上で感慨深い眺望であった。

次の訪問先であるチェンマイにはバスで移動し、チェンマイ大学経済学部に到着すると、経済学部チャラック教授によるタイ経済の一極集中と北部地域経済の活路についての講義を聴講した。

講義後はチェンマイ大学の学生を伴い郊外に移動し、この日の滞在先であるバンロムサイを見学した。整然とした明るい環境の中で 20 名ほどの子供たちが生活する孤児院である。この施設の図書館には、地域の子供たちも利用する。

メーファールアン大学 Dr.Rapipenng 先生の講義

タイとラオスの間を流れるメコン川とタイとミャンマーの間を流れるルアック川が合流、3 国が国境を接するゴールデントライアングル

メーコック　ファームで夜空に「コムロイ」を上げる

ゴールデントライアングルでのメコン川遊覧

国境に接する
メーサイの街の市場

チェンマイ大学
Dr.Charak 先生の
講義

バンロームサイを訪問。「Hoshihana Village」に宿泊

付設する私たちが宿泊する施設「ほしはなビレッジ」は、孤児院の経費を賄うために開設されたホテルで、清潔で自然に囲まれた環境である。チェンマイ大学の学生と私たちのグループは、このビレッジで懇親会を催した。チェンマイ大学、チュラロンコン大学、中央大学の学生たちがこの広い敷地のプールを囲むガーデンを占拠しての歓談、会食は夜遅くまで続いた。

バンコクに戻り 11 月 3 日の夕刻は、チュラロンコン大学、中央大学の北部タイ研修旅行チームは Sayonara Party を行った。その夜は両大学の学生諸君の歌とダンスはいつまでも続いた。

タイの大学生との今後の交流には側面からの協力を惜しまないが、引き続き OCA による交流の支援を期待したい。研修に参加した両国の学生諸君が、卒業後も国境を超えて人と人がつながる大切さを理解し続けてもらえることを願うばかりである。

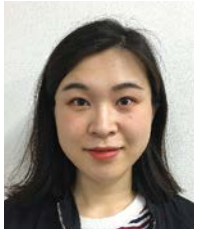
チェンマイ大学の学生と共に HIV 感染孤児の施設「バンロームサイ」を訪問。

ツアーの参加者と訪日研修プログラムに参加したチェンマイ大学の学生を交えてのさよならパーティー

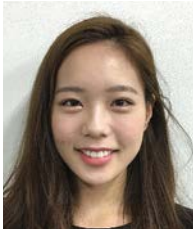
北部タイツアー プロジェクト 参加者

Chuo University

Sayoko
布間 小葉子
Sayoko Fuma

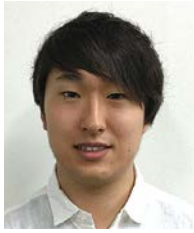


Ma- - chan
馬　暁晨
Xiaochen Ma

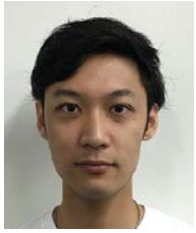


Mana
成安　真名
Mana Nariyasu

Yamashin
山崎　慎太郎
Shintaro Yamazaki



Fukku
福田　健人
Kent Fukuda



Arimacchi
有馬　和也
Kazuya Arima

Li Hou
李 鋒
Li Hou

Yuriko
瀧 佑里子
Yuriko Taki

Ryu
刘 威文
Takefumi Ryu

Hana
石川 花
Hana Ishikawa

Professor
長谷川　聰哲
Toshiaki　Hasegawa

Chulalongkorn University

Best
Virakorn
Dulyavit

Grace
Duangporn
Tosom

Phol
Savaphol
Hiruntiaranakul

Vee
Veeraphon
Sopaviriyaporn

Dear
Chongra
Thongsom

Puen
Prasit
Ninsang

12月

アジアンビート タイツアー

12月15日〜23日

台湾から 5 人、韓国から 4 人、日本から 21 人合計 30 人でタイ北部を訪問。歌とダンスを通じ各所で公演と交流会を行った。

タイで大ブームだった「恋するフォーチュンクッキー」。大学生も一緒に踊って大盛り上がり! 楽しい!

島林 由香

Yuka Shimabayashi

アジアンビートプロジェクト 2018、スタッフを務めました島林由香（ゆかちん）です。今回の舞台はタイ!真冬の季節からホットなタイへ、とても濃い時間を過ごしてきましたので、報告致します。

9月のサマーキャンプ

今回のアジアンビートツアーは 12 月 15 日〜 23 日までの 9 日間です。ツアーの前に私たちは東京でキャストを集めてサマーキャンプを行い、メンバーと友達になること、皆でパフォーマンスを作る作業を行いました。サマーキャンプには台湾から 10 人、韓国から 4 人、日本人のキャスト 16 人、合計 30 人が集合、市川少年自然の家でサマーキャンプを行いました。

台湾からの 10 人のキャストは 9 月 4 日に来日し、東新宿のホテルに宿泊。翌日スクールプロジェクトのスタッフとともに港区白金台小学校を訪問して小学生とダンスの交流を行いました。夕方代々木ミューズホールでコモンビートのメンバーが歓迎パーティ。6 日は昨年アジアンビートに参加した高橋ミカさんの子供ダンス教室との交流会も行いました。7 日には市川少年自然の家に移動、韓国・日本キャストも合流して本格的なサマーキャンプが始まりました。8 日にはアジアンビートタイツアーについての説明、ツアーのテーマ決め、ダンス交流に続き 48 期東京公演のキャストにアジアンビートのダンスを披露しました。

9日ホームチームを発表、ツアーをどのようにやるかグループトークを行った後、野外炊飯パーテイを行ってサマーキャンプの全日程を終了、成田空港へ向かいました。ホームチームを決めてのグループトーク、一つのダンスの振り付け作業から東京公演メンバーへの披露、野外炊飯でカレーを一緒に作ったりで、メンバーとの協力体制が作れたのではないかと思います。これから各々の国に帰ってさらにリハーサルを重ねます。サマーキャンプの経験がアジアンビートのタイツアーで充分生きてくると信じています。

みんなでカレー作り。初めての共同作業、美味しく出来た!@サマーキャンプ

約 3 か月ぶりの再会

12 月 15 日日本各地から 17 名、台湾から 5 名、韓国から 4 名、スタッフ 4 名、計 30 名がバンコクに集まりました。3 か月ぶりの再会です。9 月のサマーキャンプ以来タイで再会するまでの 3 か月間、動画を送り合ったりして励まし合い練習に取り組み、はたしてどのようなパフォーマンスができるのか、不安と興奮が入り混じる中、ツアーが始まりました!

チームビルディングアクティビティ!!

大学での大きなショー!

12 月 16 早朝バンコクからタイ北部チェンライへ飛行機で向かいました。再会したキャストは息つく間もなくツアー最初のショーを行うメーファ―ルアン大学へ。キャストにとってこれが初めてのショー。3 時間という短い時間で、3 か月間それぞれの場所で練習してきたものを合わせる、これがかなりのチャレンジでした!（笑）完成度の低い曲もあり、緊張からか上手くいかない場面もありました。そんな中、本番前、キャストたちが輪になって一番不安だった歌を歌い始めました。目を見てお互いを感じながら歌えば、みんながいると感じられる、強くなれる。私たちがショーで何を見せたいのか。それは、歌やダンスがどうとかではなく、国籍や年齢、言葉が違っていてもこんな仲間になれるんだっていうこと。アジアンビートをやる意味を、全員で再確認し、いざ、本番へ。

イベントは、大成功!キャスト一人一人の「届けたい」という想いが前面にはみ出した、熱いショーになりました。大学側のバンド演奏やゲームタイムなどでも盛り上がり、会場には 100 名を越える学生や学校関係者が集まってくれ、最後には、学生も一緒になって思いっきり踊っている姿がありました。

メーファールアン大学バンドのメンバーが生演奏。とても感激でした!

チェンマイ大学生とランチ。つたない英語、体当たりでコミュニケーション!

子どもたちとの交流

アジアンビートではショーだけでなく、歌やダンスを通して現地の子どもたちと交流することも大切にしています。今回は、小学校で300人の子どもたちと各国のダンスを踊ったり、孤児院や村の子どもたちと過ごしたりしました。交流の中で印象的だったのは、ただ「遊ぶ」という自由な時間。おお縄で遊んだり、似顔絵を描いて遊ぶ人、折り紙を教え合ったり。キャストそれぞれの特技や個性が発揮されて、子どもたちのたくさんの笑顔が見られました。特に英語が通じるわけではありません。たとえ言葉がわからなくても、心は通じ合い、楽しい時間を作ることができるんだなと実感しました。

また、バーンロムサイというHIV母子感染孤児のための施設では、孤児院の運営をどのようにやっているか、説明ツアーを行ってもらいました。大きなインパクトがありました。

国境越え

今回チェンライ、チェンマイ、バンコクと、タイの3大都市を回ったのですが、一日で2か国をまたぐ、という経験もしました。タイ北部のメーサイから徒歩でミャンマーへ、ゴールデントライアングルから船でラオスへ!国境を越えると、すぐそこなのに話している言葉が違ったり、街の雰囲気も違っていてとても不思議な感覚でした。また、川が国境ということもあり、線は見えないのに、人間が見えない線を引いた結果何が起きるのか、それぞれキャストたちも考えさせられる時間となりました。

2度目のショー

また、チェンマイ大学でもフルショーを行いました。ステージではないフラットな場所で行ったこともあり、お客さんの反応が近くて、かなり盛り上がっていました。キャストにとっても、最後のフルショーだよと伝えてあったので、全力で取り組んでくれている姿が見えました!

今年のテーマは「STEP」

このツアーで大切にしてきたことがあります。テーマの「STEP」です。大きくても小さくても良いから何か一つ、自分なりの「STEP」にチャレンジしよう!というものです。

ツアーの中盤、バスの中で「自分にとってのアジアンビートとは?」ということをシェアする時間を設けました。そこでキャストの中から「僕たちは色々足りないから、補おうとお互いに支え合えるんじゃないか」という意見をシェアしてくれたメンバーがいました。それを皮切りに、英語が喋れず苦しかったと泣きながらシェアしてくれたり、もっとみんなを知りたいとそれぞれの思いをみんなの前でシェアする姿がありました。

そして最後の振り返り。チームで想いをシェアしてもらったのですが、ほとんどが感情を抑えられず、涙を流しながら心からの思いを共有してくれてました。9日間、短いようだけれど、ひとりひとりが考え一歩を踏み出した結果がこの暖かいチームを創ったんだなととても感動しました。

これがただの旅行ツアーだったら、家族みたいな暖かいチームになれなかったと思っています。全員でショーをするという一つの大きなチャレンジがあったからこそ、結束が強くなったんだと思います。またキャスト同士言葉が通じない環境というのも、お互いがお互いを知ろうと努力する良いスパイスであったと私は思います。今回の活動で、足りないということがマイナスではなく、プラスなんだと気づかされたことがおおきな収穫でした。足りないことをむしろ楽しんで、みんなで支え合えば、国境なんて感じない、心からの友達ができるんだなと、実感することができました。

綺麗ごとではなく、本当に誰一人かけても成り立たない。ひとりひとりが必要だったんだと心から思います。このツアーを通して支援してくださった方々、タイで出迎えてくれた大学や孤児院の皆さん、学生たちに大感謝です。本当に貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

ソンテラというタイのタクシーの様な乗り物。この開放感がたまりません!

ゴールデントライアングル。国境の河の夕陽がとても美しかった。

アジアンビート タイツアー 参加者

Taiwan Members (5)

Penny
康文品
Hang Wen-pin

Jackie
黃薔琳
Huang Qiang-lin

Lisa
何安淳
He An-chun

Lily
何安雯
He An-wen

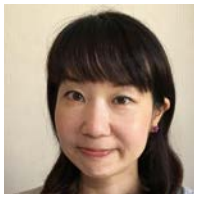
Jenny
何慧琳
Ho Hui-chuan

Korea Members (4)

CHUN
박준수
JunSu Park

JUHONG
김주홍
Juhong Kim

YOUME
김유미
Youme Kim


NORI
大草 紀子
Ohkusa Noriko

Japan Members (17) + Staff(2)

OG
迫 裕樹
Sako Yuki

Ho-chan
宝蔵 花穂
Hohzoh Kaho

Yusa
佐藤 ゆさ子
Sato Yusako

Natchan
赤石 夏海
Akaishi Natsumi

Sasa
佐々 文佳
Sasa Fumika

March
金子 弥生
Kaneko Yayoi

Sawacchi
澤田 和典
Sawada Kazunori

Iitomo
飯田 朋真
Iida Tomomi

Sachi
下田 さち
Shimoda Sachi

Miyuki
松本 美幸
Matsumoto Miyuki

Ichigo
佐藤 いちご
Sato Ichigo

Diggy
田中 誠一
Tanaka Seiichi

Yakitate
荒巻 淳
Aramaki Jun

Rock
金子 将大
Kaneko Shota

HaL
杉山 晴子
Sugiyama Haruko

Shin chan
楊 宇華
Yan Yushen

Mika
高橋 ミカ
Takahashi Mika

Yuka
島林 由香
Shimabayasi Yuka

Sae
上原 紗英
Uehara SAE

年間40校 全国に広がる「スクール プロジェクト」

花宮 香織

Kaori Hanamiya

本年度は、小学校から高校まで、合計 43 校の 5,003 名の子どもたちに、国際理解や表現を楽しむ授業を届けることができました。また、学校に訪問した大人は約 60 名になります。首都圏の小学校では、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、国際理解の需要が高まっています。

コモンビートの提供する「世界のダンス教室」は、ケニア・フランス・トルコ・タイ・ブラジルなど世界の様々な地域のダンス体験を通じて、世界の文化の多様性や表現の楽しさを体感できる授業として、学校からのご依頼が年々増えています。また、異文化との出会いや、多様な大人と触れ合う機会を地方の子どもたちにこそ提供したいという声をうけ、今年度は、宮城県の石巻市でも授業を実施しました

また、今年度からの新たな取り組みとして、増加する依頼や PTA 行事や放課後教室など多様化する要望に応えるため、ファシリテーターの養成講座を実施しました。Up with People 参加者などの国際経験豊かなファシリテーターが授業を行うこで、世界の面白さを子どもたちに実体験を通して伝えることができています。

〈子どもたちの感想〉

・今日のダンスがとっても楽しかったので、大人になったら全部の国に行ってその国の人たちと一緒に踊りたいです。

・体育の授業は好きじゃなかったけど、今日のダンスは楽しかった

・他の国の踊りも知りたいので、また授業に来てください

・外国に行ったことはないけれど、挨拶や写真やダンスで楽しいイメージが湧きました

〈先生の感想〉

情報はたくさん入ってきても実際に外国に触れる機会が少ない子どもたちにとって、体を動かして体験することすべてが新鮮で本当に貴重な経験になりました。

相馬 豊胤氏の死去と「しのぶ会」の開催

1月27日「相馬豊胤さんをしのぶ会」が行われた。長くMRAの活動に貢献し、OCAを発足させるとともに、その活動を発展させてきた相馬豊胤さんが平成30年7月30日に享年95歳でお亡くなりになりました。葬儀は8月6日桐ケ谷斎場で行われ、会場には相馬さんの死を惜しむ方々200人が参列されました。葬儀は神式で行われ、UWPのブラントンベルク夫妻からの弔文が読まれました。常陸宮家妃殿下、駐日タイ大使からの弔花が届けられ、多くの方がタイから葬儀に駆けつけられました。

9月17日には相馬さんの50日祭と納骨の儀が青山墓地で行われました。UWPのブラントンベルク氏、デールペニー氏、台湾の林定三氏も参列し、親戚の方々に見守られ眠りにつかれました。

「しのぶ会」の実現ができたのは年が明けた1月27日（日）になりました。霞が関ビル35階の東海大学校友会館を会場として120人の皆さんが集まっていただきました。準備の段階で生前の相馬さんがお好きだったような明るい、活気のあるパーティーにしようということになり、服装もカジュアルでご案内し、コモンビートの若い人たちも参加して歌を歌っていただくことにしました。当日はタイからチュラロンコン大学のDr.Worawet経済学部長、Sirima教授他16人の方々

が、またフィリピンからラケールさん、アテックさんが来日して参加してくださいました。会場は120人の皆さんで一杯になり、奥村さんの流暢な司会で進められました。最初に佐藤理事長の献杯の音頭で始まり、渋沢雅英さんが友人代表としてあいさつされました。タイからはタイOCA代表のチュティマさんとチュラロンコン大学のDr.Worawet経済学部長が流暢な日本語であいさつされました。皆さんお食事とドリンクが進む中、コモンビートの若いメンバー12人が登壇して相馬さんも好きだったミュージカル「コモンビート」のメ

インテーマを披露しました。その後ビルクラッチフィールドさんが加わり、「涙を超えて」「Up With People」を会場の皆さんと合唱し席を盛り上げました。

挨拶の間には相馬さんの一生を紹介したスライド、アジアンビートの動画、武道館のビデオが紹介され、その後に相馬さんの葬儀、納骨式の模様がスライドで紹介されました。

最後に相馬登喜子さんが出席して頂いた方々にお礼のあいさつをするとともに豊胤さんとのいくつかの思い出話を披露して、ほのぼのとした雰囲気で「相馬さんをしのぶ会」を閉会としました。多くの方々から素晴らしい会だったとのご意見を頂きました。改めて相馬さんの友人関係の広さと深さとその影響力が分かったような気がしました。

(財)MRAハウスとOCA事業

MRA は Moral Re Armament の略である。第一次大戦後 1920 年代に Frank Buckman 博士がオックスフォード・グループと呼ばれる平和運動を提唱したことから始まった。第二次大戦後スイスの Caux で現在のダボス会議の先駆けのような「世界会議」を開催し、「独・仏の和解」や日本を含む「アジアの融合」運動などを展開した。このグループは冷戦の中で武力の再武装を進めるのではなく、Moral の再武装を行うことを提唱した。これが MRA の活動の起点である。その後米国ではミュージカルショウを公演しながら世界を旅行して、青年の教育を行う「Up With People」という教育財団に展開し、日本では「(財) MRA ハウス」として国際相互理解の増進を図る事業、国際的リーダー・人材の育成を図る事業を実施、支援、助成する財団へと発展した。
(財) MRA ハウスは 2018 年度 9,790 万円を公益目的事業、助成事業に充て活動を展開している。

OCA は Off Campus Activities の 略。1971 年 (財) MRA ハウス内に東南アジアとの国際交流、学生交流事業を目的とした団体として発足した。この年日本の大学生が東南アジアの大学を訪問し、その後 50 年近く東南アジア、韓国、台湾を中心に若者の国際交流活動を行っている 。

OCA 事業部は (財) MRA ハウスの直轄事業として現在この活動報告に紹介したプロジェクトを実施している。

OCA 事業の年間予算は 2018 年度で 1,458 万円 (実績) 2019 年度で 1,650 万円 (予算) である。

麻布の MRA ハウス跡地に建設
2020 年完成予定の新 MRA ハウス
(イメージ)

OCA の運営方針

組織形態　OCA は一般財団法人 MRA ハウスの直轄事業として活動している。

活動方針　海外との異文化交流と地域社会との交流を通じてグローバルリーダーシップの育成を目指す。

活動予算　活動予算は一般財団法人 MRA ハウスの年次予算による。MRA ハウスは基本財産およびその他の財産運用等により事業活動を行っている。

年間予算　2018 年度（実績）、2019 年度（予算）の OCA の活動内容と年間経費は以下の通り

時期	プログラム	2018年度(実績)	2019年度(予算)
5月	コモンビート台湾公演	1,158,000	–
5月	タイ学生訪日研修プログラム	748,000	740,000
6月	台湾キャストリハーサル指導員派遣	176,000	200,000
7月	おにぎりフレンズプロジェクト	663,000	700,000
8月	サマーキャンプ	430,000	450,000
11月	日・タイ学生北部タイツアー	1,122,000	1,200,000
12月	アジアンビートプロジェクト	1,720,000	1,690,000
	新規事業調査費	519,000	500,000
	出張経費	1,147,000	1,140,000
	チュラロンコーン大学支援費	83,000	100,000
	スクールプロジェクト	514,000	1,500,000
	メイコックファーム、バーンロムサイへの寄付	800,000	800,000
	UWPへの派遣支援費	1,000,000	1,000,000
	業務委託費	2,505,000	3,500,000
	一般経費	1,990,000	2,500,000
	OCAレポート印刷費	–	480,000
合計(円)		14,575,000	16,500,000

運営委員　佐藤、毛原、古関、高橋、清水、安達、我妻、中嶋、瀧澤、肥沼、奥村、北野、秋山、島林、渋沢、神部

参加方法　OCA の活動はメンバー制を取っていません。入会金も必要ありません。
以下 MRA ハウスのホームページに活動予定と内容を記載しますので、参加ご希望の方はホームページに記載された申し込み方法にてご連絡ください。

連絡先

一般財団法人 MRA ハウス　OCA 国際交流事業

〒 106-0032　東京都港区六本木 3-15-11　ホーマットウエスト 440 号室
電話 03-6441-3182
ホームページ　http://www.mrafoundation.or.jp/